

持参薬と検査時に使用する薬剤との禁忌

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は持参薬と入院後の検査で使用する薬剤との相互作用を確認することで、禁忌事項を回避し安全な治療の提供に貢献できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

- ▶心房細動に対してアブレーション目的で入院した患者
※HIV-1感染症に対してストックリン®錠を服用している

Cさん

【持参薬】

ストックリン®錠 600 mg 1回1錠 1日1回 朝食後

【注射】

ミダゾラム®注 10 mg 1A 検査時



どうしましたか。

医師

アブレーション目的で入院されましたCさんについて情報提供があります。



薬剤師

Cさんはストックリン®錠を服用されており、使用予定のミダゾラム®と**併用禁忌**となっています。ミダゾラム®はストックリン®の**代謝阻害作用**により、**不整脈や持続的な鎮静、呼吸抑制等**が起こる可能性があります。ストックリン®は中止が難しい薬剤ですので、ミダゾラム®を他剤へ変更できないでしょうか。



そうでしたか。ストックリン®は継続してもらいましょう。鎮静にはイソゾール®を使いましょうか。

そうですね。イソゾール®であれば問題ないと思います。よろしくお願いします。



持参薬と検査時に使用する薬剤の相互作用を確認することで、禁忌事項を回避し安全な薬物治療の提供に貢献できた。